令和８年５月３１日(日)陸奥新報（１面）

健康データ多様に測定

参画企業など68ブース設置 岩木健診始まる

弘前

弘前大学が中心となって取り組む大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」（岩木健診）が30日、弘前市の岩木文化センターあそべーる・中央公民館岩木館で始まり、参加者が3000項目に及ぶ健康データを測定した。6月8日まで、市民1367人が受診する。

今年で22年目を迎えた岩木健診では、手首の血流状態から体内疲労を測る資生堂、あおむけと座位で顔を撮影し肌のたるみを計測する花王、人工知能（AI）と会話して脳の健康度を評価するマツダといった参画企業のほか、電気刺激レベルで痛覚を評価する同大大学院医学研究科分子病態病理学講座など68ブースを設置。世界トップレベルのウェルビーイング（心身および社会的に健やかで幸せな状態）研究の促進に向けて測定内容を拡充した。

初日は126人が受診。新たに測定項目に加わった本田技研工業の「運転技能検査」のブースでは、ハンドル操作課題で腕の動きを測定した。森永製菓の「食事・満腹感の調査」では、食欲と体の状態の関係性を明らかにするため、受診者がおにぎりなどを食べアンケートに答えた。

介護職員の太田貴子さん（48）は「今回が12回目。多種多様な測定項目で体の状態を知ることができ大変ありがたい。私たちのデータが、楽しく元気に暮らすための研究につながってくれたらうれしい」と話した。

統括する弘前大副学長の村下公一教授は参加する市民に感謝した上で、「岩木健診の健康ビッグデータを解析した研究成果が地域の健康寿命延伸、参画企業の商品開発などにつながっている。今後も本県の短命県返上はもちろん、地域をはじめ世界の人々のウェルビーイング向上に貢献する成果を創出していきたい」と力を込めた。（稲葉智絵）

ハンドル操作課題で参加者（左）の腕の動きを測定する本田技研工業のブース